

ネイティブベーカー酵母 (S. cerevisiae) ピルビン酸脱炭酸酵素

Cat. No. NATE-0510

Lot. No. (See product label)

はじめに

 \square 明 Uルビン酸デカルボキシラーゼ(PDC)は、細胞質内でピルビン酸をアセトアルデヒドと二酸

化炭素に脱炭酸する触媒作用を持つホモテトラマ一酵素です。ピルビン酸デカルボキシラーゼは、補因子であるチアミンピロリン酸(TPP)とマグネシウムに依存しています。PDCは β - α -

 β 構造を持ち、平行な β シートを形成します。

用途 ピルビン酸デカルボキシラーゼ(PDC)は、チアミンピロリン酸(TPP)結合に関与する残基

を研究するために使用されます。これは、植物種における発酵□路の調節を研究するために使

用されます。

別名 ピルビン酸デカルボキシラーゼ; EC 4.1.1.1; α-カルボキシラーゼ(あいまい); ピルビン酸デ

カルボキシラーゼ; α-ケト酸カルボキシラーゼ; 2-オキソ酸カルボキシ-リアーゼ; 9001-04-1;

2-オキソ酸カルボキシ-リアーゼ; PDC

製品情報

由来 ベーカリー酵母 (S. cerevisiae)

形態 硫酸アンモニウム懸濁液; 3.2 M (NH4)2SO4 pH 6.5の懸濁液で、5% グリセロール、5 mM

リン酸カリウム、 $1 \, \text{mM}$ 酢酸マグネシウム、 $0.5 \, \text{mM}$ EDTA、および $25 \, \mu \text{M}$ コカーボキシ

ラーゼで安定化されています。

EC番号 EC 4.1.1.1

CAS登□番号 9001-04-1

活性 5.0-20.0 ユニット/mg タンパク質 (ビウレット)

単位定義 1ユニットは、 25° CでpH 6.0の条件下で $1.0~\mu$ moleのピルビン酸をアセトアルデヒドに[換し

ます。

保管・発送情報

保存方法 2-8℃